

平成30年9月25日

平成30年度全国水産試験場長会会長賞表彰審査委員会審査結果報告書

全国水産試験場長会
会長 村山 達朗 様

全国水産試験場長会
優秀研究業績表彰審査委員会
審査委員長 三宅 博哉

平成30年度全国水産試験場長会会長賞表彰候補に推薦された3業績について、下記のとおり審査委員会を開催して審査した結果を報告します。

記

開催日時：平成30年9月25日（月）13：30～15：15

開催場所：東京都島しょ農林水産総合センター会議室 3F 共用大会議室

出席者：

審査委員

委員長 三宅 博哉 ((地独)北海道立総合研究機構水産研究本部 本部長)
委員 千葉 俊成 (海面 北部日本海ブロック 秋田県水産振興センター 所長)
大類 勝義 (内水面 関東・甲信越ブロック 群馬県水産試験場 場長)
森 達摩 (海面 瀬戸内海ブロック (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所水産研究部(水産技術センター) 部長)
石田 敏一 (海面 西部日本海ブロック 福井県水産試験場 場長)
中鉢 孝明 (内水面 東北・北海道ブロック 山形県内水面水産試験場 場長)

推薦ブロック幹事

海面 東北ブロック

永島 宏 (宮城県水産技術総合センター 所長)

海面 九州・山口ブロック(幹事代理)

山下 隆広 (長崎県総合水産試験場 種苗量産技術開発センター 所長)

内水面 東海・北陸ブロック

中居 裕 (岐阜県水産研究所 所長)

オブザーバー

会長 村山 達朗 (島根県水産技術センター 所長)

特別幹事 長谷川 敦子 (東京都島しょ農林水産総合センター 振興企画室 室長)

幹事 相田 聡 (広島県立総合技術研究所 水産海洋技術センター センター長)

会長事務局 若林 英人 (島根県水産技術センター 漁業生産部長 部長)

審査結果：

海面部会 2ブロックと内水面部会 1ブロックから推薦のあった以下の3業績について、その内容と推薦理由について、推薦ブロック幹事から説明を受けて審査した結果、いずれも平成30年度全国水産試験場長会会長賞表彰を受けるにふさわしい業績と判断されました。

(1) 海面部会 東北ブロック

「マボヤ被囊軟化症の蔓延防止に関する研究」

宮城県水産技術総合センター

副所長 熊谷 明

選考理由：

本研究により、韓国種苗の導入によって発生した養殖マボヤの大量死の原因が特定され、その対策方法が開発された。これらの知見を基に、マボヤ被囊軟化症が国の輸入防疫対象疾病および特定疾病に指定され、防疫対策指針（平成26年7月27日付消安第1947号）が策定された。また、震災後、再開したマボヤ養殖において2016年に本病の再発が確認されたが、本研究の成果をもとに被害の拡大防止が図られている。さらに、韓国からの新たな病原体の侵入防止や未発生海域（北海道、青森県等）への蔓延防止にも活用されている。この様に本研究は東北・北海道におけるマボヤ養殖の安定生産に大きく貢献するものであり、高く評価できる。

(2) 海面部会 九州・山口ブロック

「アゲマキ漁獲再開に向けた20年の研究」

佐賀県有明水産振興センター・資源研究担当 アゲマキ種苗生産・放流技術開発グループ

代表者 資源研究担当係長 佃 政則

選考理由：

佐賀県は1988年頃から激減した有明海特産のアゲマキについて、1996年以降、およそ20年間種苗生産・放流に取り組み、これまでに累計1,000万個を超える種苗の放流を行ってきた。これらの放流個体が母貝として機能したことにより、2007年頃から天然稚貝が出現し、2015年以降の資源回復につながったと推定された。本研究は、人工種苗生産・放流技術の開発により母貝集団を創出し資源を回復させ、漁獲の一部再開まで繋げた。これらの成果は地域の漁業振興に大きく貢献するものであり、高く評価できる。

(3) 内水面部会 東海・北陸ブロック

「溪流魚の増殖方法としての親魚放流の確立」

岐阜県水産研究所 下呂支所

専門研究員 徳原哲也

選考理由：

本研究で開発された親魚放流方法は岐阜県や広島県で増殖履行方法として認められ、平成28年の岐阜県の実績ではイワナで2組合、アマゴ・ヤマメで5組合に採用され、放流量は合計で約1.3tになっている。また、群馬県でも日本釣振興会群馬県支部・群馬県水産試験場・両毛漁業協同組合で、ヤマメの親魚放流の研究を始めている。これらの成果は溪流魚資源の持続的利用に大きく貢献するものであり、高く評価できる。